

第6回かづの未来会議

日 時：令和3年1月27日（水）18時30分～20時30分

場 所：鹿角市交流センター 2階 研修室

出席委員：9名（欠席：6名）

出席職員：〔政策企画課〕課長、政策監、主査、主査、主査

1 開会（進行：政策企画課 主査）

ただいまから、第6回かづの未来会議を開会いたします。

2 会長挨拶

予測のつかない情勢で、柔軟さも求められますが、ベースにはしっかりとした指針が必要だと思います。今回は最後のかづの未来会議になりますが、新しい総合計画はこれから始まるものなので、今後も引き続きよろしくお願いします。

3 議事

（1）第7次鹿角市総合計画前期基本計画（案）について（資料1・別添資料）

説明：政策企画課 政策監

（2）第2期鹿角市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について

説明：政策企画課 主査

（委員）コロナ禍の状況なので、この通り計画を進めるのも大変だと思います。別添資料の「総合計画の体系と第2期総合戦略との関係」で、33の取組方針のうち、色で塗りつぶされていないものが総合戦略の基本目標から伸びている矢印とつながっていないのはどういう意味ですか。

（事務局）当初は、総合計画の取組方針と総合戦略の基本目標をすべて関連付ける方向性で検討していましたが、総合計画と総合戦略が全く同じものになりますし、そのように整理する必要性も無いと判断しています。総合的に進めるものは総合計画に登載し、国からの地方創生推進交付金や関連する交付金を獲得して重点的に取り組んでいくものを総合戦略にまとめています。

（委員）総合戦略に関連づけているものとそうでないもので、どちらを優先するなどの差はありますか。

（事務局）そのような意味合いはありません。総合戦略は、国や県が定める総合戦略と同調して進めるものです。

（委員）資料2の5ページで、I-4のタイトルにPDCAサイクルを括弧書きで表記していますが、

P D C A サイクルは評価のプロセスに過ぎないと思うので、あえて表記しているのに違和感があります。

(事務局) このような表記にしなければならないということではありませんが、国からは、必ずこの評価方法に基づいて進捗状況をチェックされますので、進捗管理・評価の手法の意思表示として明記しています。

(委員) 他市の市民アンケートで SDG s の認知度についての新聞報道がありましたが、今後、この総合計画の住民説明をするならば、SDG s 自体の説明も必要になると思います。

(事務局) SDG s の説明ももちろんですが、それを鹿角市でどのように取り組んでいくのが肝要だと考えています。

(委員) この計画に載っている事業を行っていくのですか。

(事務局) 「主な事業」欄に記載しているような事業を実施しながら、成果指標で進捗を測りながら進めます。単に目標を掲げるだけでは無く、成果指標が実情と乖離していないか、見直しも行います。

(委員) 成果を確認するために、市民の皆さんの意見を聴くためのアンケートなどを実施するのですか。

(事務局) 現在も市民アンケートは実施していますし、行政評価市民会議の委員の皆さんからもご意見をいただきながら外部評価としています。

(委員) 私の周囲では、このかづの未来会議の認知度が低いと感じます。いろいろな意見や考えを持つ市民も多いと思うので、もっと市民の声を拾えると良いと思います。広報などでも周知していると思いますが、このような取組がもっと周知されれば良いと思います。

(事務局) 広報では第7次総合計画の基本構想を1月号で取り上げていますし、現在は前期基本計画のパブリックコメントも実施しています。委員の皆さんからも周知にご協力いただければと思います。住民説明会でも多くの方から参加いただきたいと考えています。

(委員) 立派な目標ができたと思いますが、市民にどう伝えて、どのように取り組むかが大切なので、頑張って欲しいと思いますし、私たちも協力したいと思います。元気な高齢者も多いですが、若い人の活躍の場も作って欲しいと思います。

(委員) 資料2の16ページで、オンラインで手続きができる行政手続きの件数が、現状ではとても少ないと思いました。インターネットに抵抗感を持つ人も多いと思いますが、確実に便利になりますし、例えば今日の会議でも、リモートでの会議だったら参加できる人が増えるのではないかと思います。広報での情報周知もされていると思いますが、私は広報をほとんど読まないのに、若い世代向けにSNSを利用するのもいいのではないのでしょうか。

(事務局) 未来技術に関しては、おそらく行政よりも民間の方がよりタイムリーなサービス提供に向けた機動性が高いのではないかと思います。行政としては、そのようなサービスを受けるための環境整備をすることが大きな役割の一つだと考えています。オンライン手続きは進めながらも、従来の手法も併用しながら、より便利な状況に進んでいきたいと考えています。

(事務局) SNS は一部の課で取り組んでいるものもあります。リモート会議も、今後広まっていくと考えられるので、環境整備を検討したいと思います。行政手続きのオンライン化については、国が押印制度の見直しをしています。それが進むと今後状況が変わっていくことが予想されます。

(委員) 基本戦略5で、「自ら学び、行動する社会人を支援します」とありますが、会社の理解がない

とこのような時間を作ることが困難だと感じます。また、市民に市の現状を知ってもらうことが大切だと思います。

(事務局) 学んだことを地域に還元できることが大切だと考えています。個人のスキル向上を自己完結で終わらせず、周囲に波及させるような取組につなげていきたいという意図で取組方針に掲げています。

(委員) 資料2で、政策アドバイザーの評価とありますが、アドバイザーは決まっているのですか。

(事務局) 大学の教授3名にお願いしています。

(委員) 大学の先生も客観的に評価できると思いますが、長い期間かけて分かるところや、地域特有の課題もあると思うので、何年も続けて見てくれる人がいれば良いと思います。

(事務局) 委嘱している教授のうち、一人は鹿角出身の方なので、鹿角のことも熟知されています。この先生を中心にし、他の方は鹿角の課題を専門分野として研究している先生にお願いしています。地元を一番知っているのは市民だと思いますので、市民からの評価と専門的な識見をもつ方からの評価を合わせ、両方からのアプローチで外部評価を実施しています。

(委員) パブリックコメントで、意見を文章にするのが煩雑に感じますし、今言わないと忘れてしまうこともあるので、もっと簡単にできないかなと感じました。また、成果指標の中に、基準値がないものがあるのが気になりました。

(事務局) 基準値がないのは、結果を累計で捉えていくものになります。累計はスタートしてからの増加の度合いを目標にしたものになるので、現在の数値がないものがあります。

(事務局) 現在値として把握している数字もありますので、工夫したいと思います。

(委員) 戦略の粗付加価値というのはどういう意味ですか。

(事務局) 商品の最終的な付加価値を計算する前の大まかな付加価値のことです。

(委員) 例えば、かづの牛を生産すると、これくらいの売り上げ目標になるということですか。

(事務局) 人件費などの経費を差し引きせず、一番ダイレクトにでてくる数字です。

(委員) オリジナルのブランドを作るということですか。

(事務局) 食料品製造業なので、加工品です。例えばかづの牛を加工によって付加価値をつけ、より儲けを出し、利益が地元に残るようにするということです。

(委員) 事業や補助がたくさんあるのですが、昨年行われた、医療の道を目指す人たちのシンポジウムのアンケート結果では、医師修学資金貸与制度の認知度がとても低かったので、いろいろな媒体を使って取組の周知をすることが必要だと感じました。また、自分の仕事が年末に繁忙期となるのですが、家族経営の小規模事業者で、繁忙期に対応できなくなり、稼げるときに稼げないようなところが増えているように感じます。普段から人を雇えば良いのですが、それも難しく、悪循環になっているので、そういうサポートができれば良いと思いました。

(事務局) 医師修学資金貸与の支援については、情報の出し方も工夫していかなければならないと思います。事業所の繁忙期対応では、事業継承や共同で事業実施するパートナーを見つけるなどの方法もあるかと思います。こちらからもお聞きしたいのですが、同業者でクラスターのようなものを作って一緒に取り組んでいこうという話し合いなどがされることはないですか。

(委員) 自分たちで事業しているという意識も強いですし、取引先の要望に応えられなくなる可能性も

あるので、なかなかうまくいかないところだと思います。

(事務局) 資料1の13ページで、主な事業として「特定地域づくり事業組合設立支援事業」というものがあります。通年雇用が困難な場合でも、地域に組合を作って、繁忙期に人材をマッチングさせるという国の支援がある取組です。まだ商工会でも検討が進んでいないと思いますが、県内でも農業やスキー場運営などで取り組んでいるところがあるので、話し合って進めていけたらと考えています。農業においても人材不足が課題なので、8ページに「農業サポーターマッチング事業」という事業を載せていますが、アプリを利用して繁忙期の人材確保を図る取組です。

(委員) このようなコロナ禍の状況で、多くの人たちが家で過ごす時間が増えていると思うので、例えば、料理や食に関する興味関心の高まりをチャンスにできるのではないかと思います。テイクアウトに対する需要も高まっていますし、地元の食材をもっと知ってもらい、地産地消などの内側の取組みを発信していけたら地域も盛り上がるのではないかと思います。

(事務局) 地域の人たちが元気に活動していることを発信することで、Uターンや移住にもつながると思います。先日、シビックプライド醸成市民講座でインスタグラムの活用の講習会を開催しましたが、市民一人ひとりが広報マンになれるような取組みを続けていきたいと考えています。また、地域の情報を市民にどのように受け止めてもらえるかが大切なので、いろいろな会議などに市民から参加してもらうなど、市からの情報発信に努めたいと思います。

(会長) そのほか、追加で伝えたいことはありますか。

(委員) 移住して2年くらい経ちますが、鹿角の人たちは市役所に頼っていると感じます。これからこの計画を実現していくためには、自分たちのことなので、みんなで力を合わせて一緒にやっていくと意識が大切だと思います。市役所の人たちとの距離感が近くなるような仕掛けがあってもいいのかなと思います。市へ意見を届けやすくすることも必要だと思います。

(委員) 市役所を定年退職してから特に何もしていない人も多いと思うので、ボランティア活動などに参加してほしいです。

(事務局) 民生委員などで活動している人も多いと思います。

(委員) 以前の会議で、在宅医療の優先度がまだ低いということでしたが、このようなコロナ禍でもありますし、将来的には在宅医療がさらに必要になる可能性もあると思います。また、地域医療についても、中核病院に専門医を配置するだけでなく、総合診療ができる医師を確保することも有効だと思います。

(委員) 情報発信の話題がありましたが、SNSを利用するなら、キャラクターを設定して、そのキャラクターに発信させればいいと思います。鹿角市のたんぼ小町ちゃんがツイッターでつぶやけば、それだけで話題性があると思います。

(委員) 広報などで周知していると思いますが、取り組んでいる事業が多いので、どんどん情報発信してもらわないと、意見を言ったり参加したいと思っても情報がわからないので、気軽に毎日発信できるツイッターなどのSNSを利用するのが有効だと思います。

(委員) 市民の声を気軽に届けるために、思いついたことを書き込めるような、インターネットの掲示板のようなものがあればいいと思います。

(事務局) パブリックコメントは市が策定する計画に対する意見を募り、整理していくものになります。

日常的なご意見は、現在でも市にメールで届けられるような体制になっていますし、実際にそのようなメールも届いています。市の情報を皆さんに親しみやすく届けるとするのは、市も頑張らなければならないのですが、例えば、鹿角の情報を市外へ発信するのは市民の方も一緒になって盛り上げていければと考えています。

(委員) 総合戦略の評価はどのようなタイミングに行うのですか。

(事務局) 次年度に成果の検証を実施し、行政評価市民会議でもご意見をいただきますし、翌年度以降の実施計画や予算編成にも反映させます。

(委員) まとめてやると雑になると思います。一つ一つの事業に対して意見がある場合はどうすればいいのですか。

(事務局) それぞれの事業で市民の方に関わっていただく場面もありますし、このような総括的な会議に限らず、いつでも意見をいただけるようになっています。

(会長) 行政からの効果的な情報発信については、全国的に苦戦していると思います。情報発信する側と受け取る側の認識のズレもありますし、人間はわがままなので、知らないことがあると調べる努力をせず、相手のせいにしてしまうところがあると思います。情報発信と同様に、情報を受信する力も必要だと思います。いろいろなアイデアが出たので、市民も一緒に取り組み、いい方向に進めればいいと思います。

(政策企画課長)

会長をはじめ、委員の皆さま、約2年に渡りありがとうございました。昨年から議論してきて、基本構想の将来都市像の「ふるさとを誇り」の部分は、皆さんからの意見をストレートに反映できたと思います。鹿角について、大人がきちんと価値を評価し、子どもに伝えられているかというご意見が心に響きました。足りない部分はあると思いますが、いい所はいいと評価して誇りをもつことは大切だと思います。引き続き、ふるさと生き生きネットワーク事業やふるさと学習も継続しますが、来年度はさらに、学校の枠を飛び越えた全市的な勉強や、高校卒業後に鹿角を離れた人たちと SNS を利用してネットワークを構築する仕組みも考えています。計画策定後も皆さんからご協力いただき、一緒に進められたらと思いますので、今後もよろしくお願いします。

4 閉会 (20 : 30 終了)